

## 令和2年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

時代を超えて受け継ぐ「自主・自律・自由」の校風のもと、予測不能な21世紀社会をしなやかにたくましく生き抜く力を育み、多様性を認め、人と人・社会との繋がりを大切に行動する意識を醸成し、それらによってこれからの多文化共生社会をリードし、より良い世界を創ることに貢献できる人間を育成する学校

そのために、すべての教育活動を通じて、以下の力を育む。

1. 幅広い教養を身に着け、主体的に学ぶことができ、自らのキャリアをデザインする力
2. 広い視野と当事者意識を持って社会や世界の課題に向き合い、意見の交換や調整を通して協働して課題を解決する力
3. 多様性を認識し、互いに切磋琢磨し支え合いながら、未知なるものに果敢に挑戦し、新しい価値を創造する力

また、このような教育活動を推進するために、教職員の同僚性を高め、新たな課題に対してもチームで克服できる体制を整え、学校力を向上させる。

## 2 中期的目標

## 1 幅広い教養を身に着け、主体的に学ぶことができ、自らのキャリアをデザインする力を育む。

- ア 生徒が自ら課題設定ができ自学自習できるように、主体的な学びの姿勢を引き出して、積極的意欲的に学習に取り組む力を育成する。
- イ 体験的な活動や探究的な学習等を取り入れて、課題を設定し解決する力や、科学的で論理的な見方、考え方、表現力等を育成する。
- ウ 新学習指導要領や高大接続改革など、新たな教育課題に対応できるよう教員の授業力の向上をめざす。
- エ 三年間を見据えた進路指導計画を更新し、生徒・教職員・保護者間でその内容を共有し、進路指導を充実させる。
- オ 「総合的な探究の時間」を進路探究と位置づけ、段階的なキャリア形成を支援し、全ての生徒の進路希望の実現を図る。
- ※ 授業アンケートにおいて、授業に対する生徒の興味・関心の喚起と知識・技能の定着の観点から授業を評価し、継続的な向上を図る。
- ※ 学校教育自己診断において、「自分の学力向上」の積極的回答、令和2年度85%以上を維持、令和4年度90%をめざす。(令和元年度:88.6%)
- ※ 生徒の進路希望の実現を図り、京大・阪大・神大の現役合格者数30名以上(平成29年度:27名,平成30年度:21名,令和元年度:25名)を含む国公立大現役合格者数120名(平成29年度:100名,平成30年度:62名,令和元年度:102名)をめざす。

## 2 広い視野と当事者意識を持って社会や世界の課題に向き合い、意見の交換や調整を通して協働して課題を解決する力を育む。

- ア 「自主・自律・自由」の精神の本校の伝統を引き継ぎ、新しい未来に向けて意欲的に活動する力を育む。
- イ さまざまな学校行事や生徒会活動の中で、協力と協働の精神を育みともに高めあう力を育むとともに、市民として公民意識の育成を図る。
- ウ 生徒会活動・ボランティア活動の活性化を図り、地域や社会との関わりの中で成長させる。
- エ 社会や世界の課題に触れ、それについて仲間とともに解決策を模索し、自分たちの考えを発信する力を育てる。
- ※ 生徒会選挙の投票率(自主投票)90%以上を維持する。(平成29年度:92.8%,平成30年度:89.8%,令和元年度:93.2%)
- ※ グループでの取組みをプレゼンテーションしたり、ポスターセッションする機会を持つ。令和4年度までに全学年で実施。

## 3 多様性を認識し、互いに切磋琢磨し支え合いながら、未知なるものに果敢に挑戦し、新しい価値を創造する力を育む。

- ア 部活動・生徒会活動・学校行事等において、コミュニケーション力・調整力を養い、良好な人間関係を構築する力を育む。
- イ 人権尊重の意識の向上に努める。また、安全安心な学校づくりを推進し、教育相談委員会による心の支援機能を充実強化する。
- ウ 留学生や姉妹校との交流を含め、国際交流等の多様な機会を設けて、異文化理解を深め、コミュニケーション能力を高める。
- エ ユネスコスクールの取組みを様々な教育活動において発展させる中で、世界の持続発展に貢献できる力を育む。
- ※ 1年次の部活動加入率95%以上の維持を図る。(平成29年度:97.2%,平成30年度:98.8%,令和元年度:98.8%)
- ※ 保護者向け学校教育自己診断で、生徒の自主・自律・自由を重んじる校風に対する支持率90%以上の水準維持に努める。(平成29年度:95.4%,平成30年度:94.3%,令和元年度:93.6%)

## 4 教職員の同僚性を高め、新たな課題に対してもチームで克服できる体制を整え、学校力の向上を図る。

- ア 業務の見直し、組織の再編等により、より機能的な体制を作り、時間外勤務時間の縮小をめざす。
- イ 学年・分掌・教科間の連携を密にし、課題の共有や見える化を進め、互いに補い合える、工夫がしやすい環境を作る。
- ※ 学校教育自己診断において、学校教育自己診断における教職員の「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に連携している」60%をめざす。(令和元年度:31.0%)
- ※ 時間外勤務時間の月平均を毎年、前年度より減らす。(令和元年度:32.2時間)

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学校生活全般】「学校へ行くのが楽しい」91.9%〔91.8%〕「子供は楽しいと言っている」84.6%〔82.8%〕と大きな変化はなく、引き続きWithコロナにおける学校生活の充実を工夫したい。</p> <p>【授業】「学力向上に役立っている」82.4%〔88.6%〕減「子供はわかりやすく楽しいと言っている」54.6%〔53.2%〕微増。次年度は、休業により影響を受けた学習内容の補充も含め、さらなる工夫・改善が必要。</p> <p>【キャリア形成支援】「将来の進路や生き方を考える機会がある」83.4%〔72.3%〕大きくアップした。さらに内容の充実をめざす。保護者「進路指導の適切さ」72.2%〔76.1%〕「情報の伝わり方」58.4%〔69.3%〕について、早急に改善したい。</p> <p>【生徒会活動等】生徒「主体的に取り組んでいる」92.3%〔82.7%〕保護者「積極的に参加している」92.8%〔90.7%〕と制限された中でも活発である。</p> <p>【その他】「気軽に相談できる先生がいる」44.5%〔43.7%〕「保護者への情報提供の努力」86.6%〔80.9%〕等引き続き向上させる。「SCの周知」54.6%〔49.2%〕さらなる徹底が必要。今年度当初に整備した緊急連絡メール(メルマガ)について、「メルマガの役立ち度」90.2%〔81.8%〕引き続き発信に務めたい。</p> <p>※数字はすべて積極的回答。〔 〕内は前年度。</p>	<p>【第1回 7月13日】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リアルタイムのオンライン授業については、20~30人程度なら何とか実施できるが、それ以上になるとサーバーがしんどくてパンクすることがある。大学でもそれは原則しないように指示が出ているところもある。教材作成に苦労がある。</li> <li>キャリア形成支援については、職業といっても色々な側面があり、視野を広げるなどもっと広い世界を知ってもらえるように指導していくことが望ましい。</li> </ul> <p>【第2回 10月27日】</p> <p>プロジェクターの利用について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>手書き用のペンを使うなど、もう一工夫したらという印象を受けた。</li> <li>新たな教具を利用した授業案を考えるPTなどがあれば良いかと思いました。</li> </ul> <p>新カリキュラムの編成について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学ぶべきものを学び、受験にも対応してほしい。</li> <li>文系でも数学は学んでおくべきだが、受験とのバランスでどこまで教えることができるか難しいかもしれない。</li> </ul> <p>【第3回 2月15日】※緊急事態宣言のため書面開催に変更</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個々のポジティブ回答の増減やネガティブ回答の増減についてコロナ禍の影響かどうかの検証が必要。また少数意見への配慮も必要である。</li> </ul>

## 府立春日丘高等学校

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育のICT化には、メリットがある反面多くのデメリットもある。学校教育の重要な点は、集団の中での成長にこそあると思うので、そうした観点からの落としどころの議論が必要である。</li> <li>・キャリア教育についてはこれまでも意見を述べていたように、その視点で取り組んでいただいていると思うが、生徒の「視野の拡大に力をおいたご指導を願いたい。</li> <li>・異文化理解については、これまでも素晴らしい取組をされていると思います。頭で理解するだけでなく、感覚として持って行動できるようになることをめざしていただければと思う。</li> <li>・「先生は生徒の話をよく聞いてくれる」の肯定的回答が多く、先生方に感謝します。ただ2年生で否定的回答が12.3%あるのが気になります。</li> <li>・コロナ禍でも様々な工夫をされて学校運営をされ、先生方の努力の跡が感じられました。今年度が異例でなくなるかもしれません。色々とお苦勞があるかと思いますが、魅力ある学校づくりをめざしていただきたいと思います。</li> </ul>
--	---

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 幅広い教養を身に着け、主体的に学ぶことができ、自らのキャリアをデザインする力を育む	<p>ア 積極的・意欲的に学習に取り組む力の育成</p> <p>イ 様々な学習の工夫</p> <p>ウ 授業力の向上</p> <p>エ 進路指導の充実</p> <p>オ キャリア形成支援による進路希望の実現</p>	<p>ア ・小テスト等の活用で、結果の「見える化」をはかり、生徒の達成感を高めることにより、主体的かつ積極的に学習に取り組む姿勢を育成する。</p> <p>イ ・理科教育を推進するサイエンスツアーの実施。 ・英語四技能を伸ばし、実用的な英語力を育成。 ・卒業生等による「藤蔭講座」の継承・発展。</p> <p>ウ ・互見授業を実施し、フランクに授業について話し合える機会を設けると同時に、組織的な授業力向上の取組を行う。</p> <p>エ ・三年間の進路指導計画の更新と教職員間での共有。 ・進路指導関係の研修への積極的参加と校内への還元。</p> <p>オ ・「総合的な探究の時間」を進路探究と位置づけ、3年間を見通した計画を策定し、自らの将来を切り拓く力をつける。 ・1年次より自分の将来を描くことができるよう将来について考える機会を設け、生徒の進路希望の実現を図る。 ・サタデーセミナー（サタゼミ）及び土曜講習の内容の充実。</p>	<p>ア ・学校教育自己診断「授業は自分の学力向上に役立つている」の積極的回答 85%以上維持。（令和元年：88.6%）</p> <p>イ ・サイエンスツアーの参加者数 20 名。（令和元年：13 名） ・英語：1 年生ではグループでプレゼンテーション、2 年生ではスピーチを実施する。 ・「藤蔭講座」アンケートによる満足度 90%以上維持。（令和元年度：100%）</p> <p>ウ ・互見授業 全教員実施。感想シートを活用。 ・研究授業 10 回。（令和元年度：8 回） ・授業力向上のための校内研修 1 回実施。</p> <p>エ ・進路指導に関する校内研修 1 回。 ・学校教育自己診断「進路に関する必要な情報を提供」の積極的回答 85%以上を維持。（令和元年：85.8%） ・進路指導関係の研修への参加 10 名以上。</p> <p>オ ・今年度実施しながら、次年度以降の計画案を新たに探究 PT を立ち上げて策定する。  ・京大阪大神大の現役合格者数 30 名以上を含む国立大への現役合格者数 110 名以上。（令和元年：102 名） ・サタゼミ及び土曜講習の参加人数 350 人以上。（令和元年：347 人）</p>	<p>ア ・積極的回答 82.4%にとどまった。授業の遅れを取り戻すため難しい面もあったと思う。11 月の教職員研修での「生徒が主体的に取り組む授業」について教科を超えての意見交換ができたので、今後につなげていきたい。（○）</p> <p>イ 感染症対策のため、代替企画 ・代替企画として、校内でサイエンス・レクチャーを開催し 20 名程度の生徒が参加。（iPS 細胞について）（○） ・英語：1 年 4 コマ漫画のセリフを考え、演技発表やインタビュー、2 年スピーチを実施。（○） ・コロナ禍のため中止。（－）</p> <p>ウ ・全教員実施し、感想シートを提出（○） ・研究授業 11 回。（◎） ・講師は招聘できず。11 月に意見交換実施。（○）</p> <p>エ ・職員会議で進路指導計画を共有（○） ・85.2%で維持。また「将来の進路生き方について考える機会」83.4%〔72.3%〕が大きく伸びたので、内容を充実させ次につなげたい。（◎） ・外部研修はほとんど中止、オンライン研修に参加（10 名）模試の振り返り、大学入試の傾向等の校内で実施した研修には担任団だけでなく、各教科の教員が参加。（○）</p> <p>オ ・探究 PT により、企画・運営を行う。（○）次年度は、大まかな流れを確定し、細部を詰めているところ。（○） ・京大阪大神大の現役合格者数 30 名を含み、国立大学への現役合格者数 109 名。（○） ・コロナ禍により中止し、土曜授業や模擬試験（外部会場が中止になり学校で実施）を実施。（－）</p>

## 府立春日丘高等学校

<p>2 広い視野と当事者意識を持って社会や世界の課題に向き合い、意見の交換や調整を通じて協同して課題を解決する力を育む</p>	<p>イ 学校行事・生徒会活動を通して高め合う</p> <p>ウ 地域や社会との関わりの中での成長</p> <p>エ 自分たちの考えを発信する機会</p>	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒図書委員会の選書活動や「図書だより」等の発行により、読書活動の充実を図る。</li> <li>・音楽会や美術展の他、生徒の制作・表現活動を活性化する。</li> <li>・「自主・自立・自由」の本質を理解し、TPOを意識して行動ができる生徒の育成。</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元NPOや中学校との連携をさらに深め、生徒が社会の課題と向き合うきっかけとする。</li> <li>・高大連携の推進により、地域の教育力向上に貢献する。</li> </ul> <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な行事の中で、社会が世界の課題に触れ、仲間とともに考え、自分たちの意見を発信する力を育成する。</li> </ul>	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断の「読書率向上」45%以上。(令和元年度：40.8%)</li> <li>・音楽会や美書展等の充実。</li> <li>・挨拶の励行、校内環境の維持。</li> <li>・年間遅刻数 2100 回以下。(令和元年度：2197 回)</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元中学校とのサッカー大会やチャレンジ教室等の中学生や地域と関わる活動の活性化。</li> <li>・NPO との連携による清掃活動(カスピカ)等の継続と参加数 10%増。(令和元年度：570 人)</li> <li>・立命館大学や大阪教育大学との連携による事業の展開。</li> </ul> <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「総合的な探究の時間」での取組みをクラス・学年で発表する機会を持つ。</li> </ul>	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選書活動や「図書だより」の発行は実施。読書率 34.9%。忙しくて時間がないという声があった。(△)</li> <li>・感染症対策のため修正を加えながら、実施 (○)</li> <li>・学校運営協議会でも挨拶等マナーについてはよくできているという評価。(○)</li> <li>・1542 回。授業日数は数日少ないだけであり、1 日の遅刻数に換算しても昨年度 12.0 日に対し、8.3 日。特に 2・3 年で減少。(◎)</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍のため中止 (ー)</li> <li>・コロナ禍のため中止 (ー)</li> <li>・大学及び大学院からインターシップを受け入れる。大阪教育大学コンソーシアムのキャンパスガイドに参加、作文コンクールで佳作入賞 1 名 (○)</li> </ul> <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1 年生：発表の機会 2 回、2 年生：ディベート実施など、2 学年とも初めての試みが見えた。(◎)</li> </ul>
<p>3 多様性を認識し、互いに切磋琢磨し支え合いながら、未知なるものに果敢に挑戦し、新しい価値を創造する力を育む</p>	<p>ア 良好な人間関係の構築</p> <p>イ 安全安心な学校づくりの推進</p> <p>ウ 異文化理解</p> <p>エ 世界の持続発展に貢献できる力の育成</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・藤蔭祭等の学校行事や部活動を通じて、コミュニケーション力や調整力を身に付け、よりよい人間関係を構築する。</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員が協力して生徒理解を深めるとともに生徒の規範意識を醸成する。</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流の実施は難しいが、それに代わる取組みの中で、異文化理解を深める。</li> </ul> <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユネスコスクールの活動の活性化をはかり、多くの生徒が行動するきっかけを作る。</li> <li>・東北派遣プロジェクトの成果を継承する。</li> </ul>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断「学校へ行くのが楽しい」の積極的回答 90%以上維持。(令和元年度：91.8%)</li> <li>・1 年生の部活動加入率 95%以上維持。(令和元年度：98.8%)</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断で、保護者の「相談対応への満足度」60%後半維持。(令和元年度：68.5%)</li> <li>生徒の「話をよく聞いてくれる」の積極的回答 90%台維持。(令和元年度：93.4%)</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例年の国際交流等の取組みの代替案の実施。</li> </ul> <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の参加の機会、地域との交流の機会をできるかぎり維持する。(令和元年度：9 回)</li> <li>・今年度は中止が決定。次年度につなげるような取組みの実施。</li> </ul>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・91.9%で維持。(○) With コロナ下での学校行事の充実をさらに図っていく。</li> <li>・95.6%で維持。(○) 生徒の自主的な部活動運営を促していく。</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者 65.4%、生徒 90.3%で維持。(○)</li> <li>毎週教育相談委員会を実施し、情報を共有。2 月に教育相談の教職員研修を実施。(○)</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3 校(アメリカ・台湾・オーストラリア)との直接交流中止の代替として、ニューイヤーカードの交換を実施。また今年度初めての試みとして、3 月に日本への留学生との交流の機会もある英語プログラム実施。(◎)</li> </ul> <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユネスコスクールの活動として、ワンワールドフェスティバルに参加、高校生模擬国連全国大会に 2 名出場。(◎)</li> <li>・コロナ禍のため中止。(ー)</li> </ul>
<p>4 教職員の同僚性を高め、新たな課題に対してもチームで克服できる体制を整え、学校力の向上を図る</p>	<p>ア 機能的な体制づくり</p> <p>イ 連携の強化</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の見直しを行い、組織的な動きが必要な部分を明確にし、適切な業務の分担を行う。</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営委員会への意見の集約、運営委員会からの周知等を丁寧に行い、連携を強化し、動きやすい環境づくりを行う。</li> </ul>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の見直しによる時間外勤務時間の縮減 月平均前年度より減。(令和元年度：32.2 時間)</li> <li>・委員会等の再編。</li> <li>・幅広い人材の活用。</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断における教職員の「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に連携している」40%以上をめざす。(令和元年度：31.0%)</li> </ul>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月平均 33.1 時間。(△) 教材研究等授業に関わる時間や部活動引率及びその前後に仕事をする時間が多い。抜本的な対策が必要。</li> <li>・形骸化した委員会を廃止。(○)</li> <li>・ICT 活用や総合的な探究の時間等の PT に教科や学年から幅広く参画。(◎) 次年度はさらに組織化をめざす。</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・46.4%で大幅アップ (◎) まだ 50%に満たないので、物理的な問題(教職員の居場所がばらばら)をカバーして、情報共有を迅速に行い、様々な課題に組織としてよりスムーズに動けるように進化したい。</li> </ul>